

Y06a Teaching of Astronomy in Asian-Pacific Region: **最初期の天文教育国際誌**

富田晃彦（和歌山大）

天文教育に焦点を当てた中心的な学術誌が継続して存在しないことは国内だけでなく国際的にも長い間問題となっていることである。そういった学術誌が存在してこなかったわけではない。現在、例えば IAU の Commission C1 によって企画・編集されている Astronomy Education Journal (AEJ) がある。一方、そういった学術誌は始まっては消えていったという歴史の繰り返しでもあった。AEJ の説明文には、先行する学術誌として 3 誌が紹介されている。Astronomy Education Review (アメリカ) は 2001 年から 2013 年まで続いた。現在はその公式サイトさえもない。Latin-American Journal of Astronomy Education (ブラジル) は 2007 年に始まり、現在も継続している。Journal of Astronomy & Earth Sciences Education (アメリカ) は 2014 年に始まり、まだ廃刊になっていないようだが、2022 年の発行以降、情報がなく、バックナンバーもサイト上にない。この 3 誌については英文で発行された過去 100 年間以上の天文教育論文を調査した Salimpour, Fitzgerald, Eriksson (2014) AEJ, Vol.4, No.1 でも言及されている。なお AEJ は 2019 年に始まった。上記には言及がないが、これらの学術誌に先行するものとして 1990 年から 2003 年まで三鷹（東京天文台、国立天文台）から発行されていた Teaching of Astronomy in Asian-Pacific Region がある。1 年に 1-2 号の頻度で全体として 20 号の冊子体として発行され、168 編の記事が掲載されている。これは情報共有、開発教材の紹介、各種報告等を主とする回報であり、その点からいえば上記 4 誌と並ぶ査読学術誌であったとまでは言えない。一方、有用情報が多く掲載されており、また、現在も続く IAU の諸活動の原型を見ることができる記事が多い。どのような論文・記事が掲載されていたのかのレビューを紹介するとともに、査読学術誌と並んで情報共有の回報が存在する有用性についても議論したい。